

熊本県ユニセフ協会 2023 年度 理事会・総会

2023 年 2 月 18 日(土)14:00~15:00

於：熊本市現代美術館 アートロフト

理事会は総数 27 人のうち委任状を含めて 27 人の出席

会員は総数 188 人のうち委任状を含めて 104 人の出席で成立要件を満たしている。

開会に続き、谷口会長の挨拶、議案審議が行われた。

◆谷口熊本県ユニセフ協会 会長挨拶

◆議案審議 第 1 号議案 2022 年度活動報告 (案)

第 2 号議案 2022 年度決算報告 (案)

* 監査報告

第 3 号議案 2023 年度活動計画 (案)

第 4 号議案 2023 年度予算 (案)

理事会・総会后「国際協力の過去・現在、そしてこれから」という演題で関西学院大学総合政策学部教授の西野桂子氏による講演会を開催。

ユニセフ講演会「国際協力の過去・現在、そしてこれから」

講師 西野桂子氏

2023 年 2 月 18 日(土)15:00~16:00

熊本市現代美術館アートロフト

(国際協力の歴史)

60 年代 米ソ冷戦時代 国際協力が政治に使われるようになった。

GDP の高い国から貧困層への援助が流れなくなった。

70 年代 ベトナム戦争 戦争でアメリカの資金力低下 石油危機

貧しい人々への手当てが鈍化した。

80 年代 大きな政府→小さな政府 構造調整

子どもの生存のためにユニセフ活動盛んになる。

90 年代 ベルリンの壁崩壊 国連無能論

アメリカが中心となって国連活動は息を吹き返した

ミレニアム→SDGs 経済成長に伴う分配の難しさ!

(SDGs)

2016 年世界は貧困削減を究極の目標としたミレニアム開発目標の時代から持続可能な発展を目標とする時代に移った。

ミレニアム→国連に加盟している全ての国々が同じ目標に向かって努力。8つの目標。

「途上国に頑張ってもらうのを先進国が支援する」

SDGs→「誰一人取り残さない世界」を目指し格差をなくす目標を挙げている。

アジア・アフリカの経済成長とグローバリゼーションが進んだことで世界は大きく変わった！

インターネットの発達により Web へのアクセスが出来ないと情報が得られない。

ネットに接続できる人とそうでない人、教育を受けられる人とそうでない人、安全な水が飲める人とそうでない人、安全に子どもを産める人とそうでない人、働いて収入を得ることができる人とそうでない人など世界の発展から取り残された人々が出てきた。

(バングラデシュ)

バングラデシュに勤務したことで私の人生は大きく変わり原点となった。

バングラデシュは 1971 年に独立した時、激しい内戦がおこり飢餓に苦しむ人々で国は疲弊していた。

その状況を日本に向けて発信することが自分の仕事だった。

当時の農村の女性の地位は想像を絶するもので識字率は 1 割以下だった。

女性に融資→家族の生活が良くなる→子どもたちへの食事・教育の充実

教育を受ける権利は「基本的人権」→マストである！→貧困削減に繋がる

バングラデシュ政府は法律を制定し、初等教育を義務化し女子の就学率は 55%⇒91%

経済成長に女性の教育と社会進出が大きく関与している！

当時のユニセフは手紙のやり取りで往復するのに 3～4 週間もかかり不便ではあったが、今では時差も関係なくメールやスカイプで連絡が来るのは何かを失ったような気もする。

(ODA)

ODA を向上させもっと世界に貢献するプロジェクトに関わったのは人生の大きな糧となった。

ジェンダー問題では、不利な立場にある女性や女兒に対して職業訓練や女子教育の推進はなくてはならないものだ。しかし、男性に対してどこまで意見が言えるか配慮しなければならない部分があり苦労した。

ソーシャルビジネス(社会的な課題をビジネスで解決しようとする取り組み)

ユニリーバの石鹸が、メーカー名を挙げて宣伝され、安い価格で小さい売店にも売っていていつでも買えるしくみ→子どもの健康革命に繋がる。

三菱化学工業の蚊帳(マラリヤから守る)も多く送られていて、財団や企業も頑張っている！こういう動きを拡大したい。

地球の資源を過剰に使い過ぎている！持続可能な社会にするためには皆で取り組まなければ達成できない！！